

甲斐市立竜王東小学校 自己評価書

令和2年2月3日（月）作成

校長 渡辺 良仁

記述者 教頭 佐野 紳二

学校教育目標

人間性豊かで主体性に富んだ児童の育成

- (1) よく考え、進んで学ぶ子ども（自主性、創造性）
- (2) きまりを守り、思いやりのある、心豊かな子ども（社会性、道徳性、情操性）
- (3) じょうぶでたくましく、最後までやりぬく子ども（健康な心身、強い意志）

学校経営方針

- (1) 多様な学習指導と幅広い教育活動の展開及び組織的、継続的な評価と改善
- (2) 問題解決的・体験的活動の展開、オープンスクールとしての施設・設備やボランティアなどの人的資源を活用した確かな学力の育成
- (3) 全教育課程を通して、好ましい人間関係を育成し、生き方の基礎を培うキャリア教育の推進
- (4) 体育・スポーツおよび健康・安全に関する資質・能力の育成
- (5) 学校、保護者、地域との連携を図った児童の「安全・安心・安定」を基盤とし、信頼され開かれた学校づくりの推進

1 全体評価

- 学校経営方針に基づき、教育目標の実現に向けて、一人一人の教職員がそれぞれの職務を遂行してきたことにより、教育活動全般にわたって、児童と保護者から肯定的な評価を得られた。本校の学校評価に係る総合的な評価は概ね良好な水準にあると考えられる。
- 学校教育目標が具体的な行動目標として示され、それぞれの教職員が学校教育目標の具現化に向け、教育実践を行っている。
- 学校教育目標の具現化に向け、校務分掌が有効に機能し、全教職員が主体的に学校運営に参画している。
- 校内研究の研究主題である「見方、考え方を働かせて、学びを深める児童の育成」に沿って授業改善に取り組み、児童の実態に応じて学力向上に向けた学習指導がしっかり行われている。新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、更に研究を推進していく必要がある。また、外国語やプログラミング学習、教科化された道徳の評価などへの対応を組織的に行っていく必要がある。
- 全ての教職員が一人一人の児童と積極的にコミュニケーションを取り、教職員間での情報共有が適切に行われ、その結果、子どもたちが楽しい学校生活を送っている。
- PTA活動、安全指導、学習・生活指導など多くの面で保護者や地域の方からの積極的な支援をいただきながら、協力して教育活動を推進することができている。
- 学校の施設や設備を生かしつつ、学校全体で特色ある教育活動を推進している。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

- 「教職員自己評価」「児童アンケート」「保護者アンケート」の3つの調査を実施した。A評価（とても思う）とB評価（思う）を肯定的評価として捉えることとした。また、それぞれの評価を点数化し、（A：4点、B：3点、C：2点、D：1点）小数第一位までの概数で数値化し、項目ごとの平均値を前年度と比較した。

| I 学校教育目標に関して・学校経営について | |
|-------------------------------------|--|
| 達成状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・7つの評価項目全てにおいて肯定的評価の割合が100%であり、評価の平均値も全ての項目で3.6ポイントを超える高い値となっており、概ね良好な評価であると言える。学校教育目標が具体的な行動目標として示され、それぞれの教職員が学校教育目標の具現化に向け、教育実践を行っていると考えられる。 ・全体的に高い評価が得られた中で、「PDCAサイクルを生かした教育活動を行っている」「職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている」の2つの項目をB評価とした教職員が若干多かった。 |
| 改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の全面実施に伴い、各校でのカリキュラムマネジメントが求められる中、教育活動の評価と改善に絶え間なく取り組んでいくこと、行事の反省を行い、次年度に向けて方向性をきちんと打ち出していくことに取り組んでいく。 ・年休の取得等に取り組みやすい職場の環境づくりや補教体制の整備、管理職や養護教諭による教職員のメンタルヘルスの適切な管理を心がけ、働き方改革を推進していく。 |
| II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて） | |
| 達成状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・8つの項目中、7つの項目でA評価をつけた教職員が最も多く、評価の平均も3.5ポイントを上回る高い値となっている。学校教育目標の具現化に向け、校務分掌が有効に機能し、全教職員が主体的に学校運営に参画していると考えられる。 ・「校舎内外の施設設備を定期的に点検し、結果を的確に処理・報告している」「職務上『報告・連絡・相談』を行っている」の2つの項目は評価の平均値が3.8ポイントと高い評価となっている。施設設備の安全確保と、課題解決に向けた報告・連絡・相談が確実に行われ、安定した学校運営が行われていると考えられる。 ・「危機管理マニュアルを理解している」の項目が他の項目と比較すると評価が低い。今年度、危機管理マニュアルの全面的な見直しを行い、新しいマニュアルに沿った防災訓練や研修を行ってきたが、職員への周知が十分に図られていないことが明らかになった。 ・「校内研究に主体的に関わっている」の項目では、前年度に比べて評価の平均値が0.3ポイント低くなった。甲斐市教育委員会からの研究指定を受け、「『見方・考え方』を働かせて、学びを深める児童の育成」を研究主題として、授業のユニバーサルデザイン化による国語の授業改善に取り組んでいるが、昨年度まで行われていた一人一実践が行われなくなったことによる意識の差が原因として考えられる。 |
| 改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルに沿ってより実践的な防災訓練や教職員の研修を実施し、不測の事態に備えていく。 ・全ての職員が主体的に校内研究に関わることができるよう、研究組織や研究の進め方を工夫する。 |
| III 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて） | |
| 達成状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・8つの評価項目全てにおいて肯定的評価の割合が100%であり、うち4項目では評価の平均値が3.5ポイント以上と高い値となっている。各学級で児童の実態に応じて学力向上に向けた学習指導がしっかり行われていると考えられる。 ・他の領域と比較してみると、学習指導に関わってはB評価をつけた教職員の割合が高い。新学習指導要領の全面実施に伴って主体的・対話的で深い学びの実現が求められている中で教授方法や授業デザインのあり方の改革が必要とされているが、それらに対する教職員の不安の表れだと解釈することができる。また、外国語科や外国語活動、プログラミング教育など新たな学習の指導に対する不安の表れであると考えられることもできる。 |

| | |
|---|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートで学習に関わる評価項目の結果を見ると、前年度とほぼ同じ評価となっている。教職員は不安感を抱え、日々の授業実践の中で試行錯誤を繰り返しているが、児童への指導ではそのことがマイナスに働くのではなく、むしろよい方向に作用していると考えられる。 ・保護者アンケートでも、「お子さんは、学校の授業の内容がわかっていると思う」「学校は熱心に授業に取り組んでいると思う」の評価の平均値はいずれも 3.0 ポイント前後となっており、本校の教職員の学習指導を肯定的に見ていると言える。 |
| 改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・来年度以降も引き続き校内研究を中心に授業改善に取り組み、よりよい授業づくりを目指す。特に評価規準と評価方法を明確にした授業づくりと、児童の表現力の向上を念頭に置いた授業づくりに努めていく。 ・昨年度課題となっていた自主学習の取組については、昨年度・一昨年度と比較すると改善傾向が見られた。今年度家庭学習の手引きの見直しを行い、各学級でも家庭学習や自主学習の指導を行った結果であると考えられる。今後は家庭学習の手引きの活用を促進するような取組を全校体制で行っていききたい。 |
| IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて） | |
| 達成状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・6項目中4項目の評価の平均値が 3.5 ポイント以上となっている。児童アンケートの結果を見ても、「学校は楽しいですか」「仲のよい友だちがいますか」「こまったことがあったら、相談できる友達がいますか」「こまったことがあったら、相談できる先生がいますか」のそれぞれの項目での評価の平均値がいずれも 3.5 ポイント以上の高い値となっており、全ての教職員が一人一人の児童と積極的にコミュニケーションを図り、教職員間での情報共有が適切に行われ、その結果、子どもたちが楽しい学校生活を送っていると考えられる。 ・「生き方教育（キャリア教育・進路指導など）を児童生徒の実態に応じて行っている」の項目が、他の項目と比べると評価が低い。児童アンケートの「将来の夢や希望を持っていますか」の評価の平均値が 3.5 ポイント、保護者アンケートの「お子さんは将来の夢や希望を持っていますか」の評価の平均値が 2.9 ポイント（いずれも前年度と同じポイント）と、この点が本校の生徒指導上の課題であると考えられる。 ・「問題行動（いじめ、不登校等）の早期発見・早期対応ができている」の項目も、他の項目と比べるとやや評価が低い。本校ではいじめと認知された事例は少なく、重大事態に発展するような案件もなかった。また、児童アンケート「こまったことがあったら、相談できる先生がいますか」および保護者アンケート「お子さんのことで、相談できる先生がいますか」の評価もそれぞれ高いことから、全体的には適切な生徒指導が行われていると考えられる。経年的に見てもこの項目の評価は低下傾向にあり、教職員の多忙化による児童とのふれあいの時間の減少等が原因として考えられる。 |
| 改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・来年度から導入されるキャリアパスポートの活用を機会に、児童の発達段階に応じた継続的なキャリア教育を全ての学年で意識的に実施していく。また、年間指導計画の見直しを行い、各学年での指導事項を明らかにし、キャリア教育の実践を促していく。 ・担任をはじめとする教職員が日常の児童観察が十分にできるような時間と心の余裕を生み出すための業務改善にも引き続き取り組んでいく。また、Q-Uの分析や活用など、質問紙調査の活用方法の研修も継続して行い、教職員のスキル向上を図る。 |

| | |
|---------------------|---|
| V 地域との連携について | |
| 達成状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 8項目中5項目の評価の平均値が 3.5 ポイント以上となっており、積極的に保護者や地域との連携を図っている様子が伺える。保護者アンケートを見ても「学校だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる」「学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けていると思う」「授業参観や学校開放日などは、子どもの様子をよく知る機会になっている」の各項目で評価の平均値が 3.0 ポイント以上となっており、それぞれ一定の評価を得ている。これらのことから、保護者や地域との連携がうまく図られ、機能していると考えられる。 ・ 「保護者は、PTA活動に協力的である」「地域・保護者は、児童生徒の安全確保の努めている」「保護者は、学習指導や生活指導に協力的である」の3つの項目はいずれも評価の平均値が 3.5 ポイントを上回っており、教職員がPTA活動、安全指導、学習・生活指導など多くの面で保護者や地域からの協力が得られていると感じていることが分かる。 ・ 「保護者や地域の願いに応えるために、学校に対する要望を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている」は、他の項目よりも若干評価が低くなっている。家庭訪問や個別懇談などの機会に保護者と対話をする機会を設けているが、地域との対話の機会を更に増やしていくべきだと感じている教職員の声を反映していると考えられる。 |
| 改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度は学校の情報を保護者だけでなく地域住民に発信していくために、各地区の自治会長様に依頼をし、学校だよりとPTA新聞を回覧板で回覧していただいた。地域との連携を図る第一歩は、学校の様子を地域住民に知ってもらうことであると考えられる。来年度以降も学校だよりの回覧や学校ボランティアの地域への募集、学校行事へのお誘いなど、まずは広報活動に重点を置いていく。 ・ 地域人材のリスト化など、教職員が地域にどのような人材がいて、どのような場面で活用できるかを可視化することにより、地域の教育力を更に効率的に生かしていく。 |
| VI 学校の特色に関して | |
| 達成状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の特色として、以下の6項目について評価を行った。 <ol style="list-style-type: none"> ①児童生徒が進んで挨拶をするよう、指導に努めている。 ②授業参観日や学校開放日を保護者や地域に伝え、定期的実施している。 ③児童生徒が積極的に読書活動に取り組むよう、指導に努めている。 ④児童がたてわり活動に進んで取り組むよう、指導に努めている。 ⑤児童がきまり良い生活をするために、ノーチャイム制を生かした指導に努めている。 ⑥はげみ学習を効果的に行っている。 ・ 7項目中6項目で、評価ポイントの平均が 3.5 を上回っている。本校の教職員があいさつ運動や読書活動、たてわり活動、ノーチャイムによる生活などを竜王東小学校の特色ある教育として捉え、積極的に指導に取り組んでいると考えられる。 ・ あいさつに関わる評価を見ると、児童アンケート「地域の人と出会ったらあいさつをしていますか」は評価の平均値が 3.6 ポイントと高い評価となっている。保護者アンケート「学校は、子ども達に学校外でも挨拶をするように指導していると思う」でも評価の平均値が 2.9 ポイントであり、昨年度よりもわずかではあるが改善傾向が見られる（前年度 2.8 ポイント）。児童会活動でもあいさつ運動には力を入れており、その成果が少しずつ表れていると考えられる。 ・ たてわり班活動については、保護者アンケートの質問項目でも高い評価（3.3 ポイント）を得ている。のびっこ祭りや運動会などの機会に保護者が児童の活動の様子を目にすることができることで、児童会活動への理解が深まっている。 |

| | |
|-----|--|
| 改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・一日あたりの読書時間が30分以上と回答している児童が50%となっている。本校の図書貸し出し数の平均は100冊を超えており、日頃から読書に親しんでいる児童がとても多い。保護者アンケートでは、子どもの一日あたりの読書時間が30分以上と回答しているのは30%程度に留まっており、家庭だけでなく学校でも読書に親しんでいる児童が多いことが伺える。 ・「はげみ学習を効果的に行っている」が、他の項目と比較すると評価が低い。学年ごとに見ると低学年と高学年での評価が低くなっており、低学年では学習の準備等に時間が必要となること、高学年ではモジュールの実施等によりはげみ学習の時間が十分に確保できていないことが推測される。 |
|-----|--|

3 まとめ

<成果>

- ・教職員の自己評価では、43の評価項目全てにおいて評価ポイントの平均値が肯定的評価を示す値となっており、本校の教職員が市教育委員会の示す学校評価の各項目を、単なる評価項目としてではなく、日常の職務を遂行するための行動指針（具体的な目標）として意識し、日々の業務に使命感と責任を持って取り組んでいると考えられる。
- ・児童アンケート、保護者アンケートの結果を過去2年間の評価および市全体の評価結果と比較すると、いずれも同程度の評価であった。本校が掲げる「安心・安全・安定」の学校運営がなされており、そのことが児童や保護者に評価されていると考えられる。

<課題>

- ・自己評価の結果を見ると、本年度の評価ポイントは下降傾向にある。教職員が自己の教育活動を厳しい目で見つめた結果であると考えられるが、一人一人が自分の実践を振り返ったときに自信を持って「達成できた」と評価できるよう、評価と目標の一体化に努めていく必要がある。
- ・それぞれの調査において評価の低かった項目については、その結果を真摯に受け止め、改善に努めていく。
 - ①主体的・対話的で深い学びを実現し、児童の表現力や学びに向かう意欲を育むための指導方法の工夫と、評価規準・評価方法を明確にした授業の実践。
 - ②危機管理マニュアルに沿ったより実践的な安全教育と職員研修の実施。
 - ③児童の発達段階に応じたキャリア教育の実施（キャリアパスポートの活用）
 - ④新学習指導要領の趣旨を生かした教育実践を行うためのカリキュラムマネジメントの実施。
 - ⑤地域や保護者との連携のより一層の推進。